

第1回瀬戸市 ICT 戦略推進プラン検討委員会 議事録

開催日時	令和2年3月27日（金）午前10時から正午まで				
開催場所	瀬戸市役所 4階庁議室				
出席委員	8名	欠席委員	0名	傍聴者	（今回は一般非公開）
会議概要	<p>1 開会挨拶 （事務局・情報政策課長） 定刻となりましたので、ただいまから第1回瀬戸市 ICT 戦略推進プラン検討委員会を開催します。</p> <p>私、司会進行役を務めさせていただきます、瀬戸市情報政策課長の梶田と申します。よろしくお願いいたします。本日は大変お忙しいなか、またお足元の悪い中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中での開催となり、大変恐縮でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>（先ほどからご案内ありますが、事務局の方でマスク、アルコール除菌もご用意しておりますので、遠慮なくお使いいただければと思います。本日の会議の一般傍聴は新型コロナウイルス感染症対策として「不可」とさせていただいておりますので、併せてご了承くださいませようをお願いいたします。）</p> <p>はじめに事務局を代表しまして、瀬戸市長よりご挨拶を申し上げます。</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>改めまして皆様こんにちは。瀬戸市長の伊藤保徳でございます。大変な世の中になっておりまして、今日も副市長を始め、みんなで対策会議をやっておるところでございますが、子ども達のいわゆる一斉休校というものが、思いの外悪影響がありまして、学習の遅れですとか、子ども達のストレスたるや半端なものではないということで、自主学級ですとか児童クラブの方にも出かけてまして、どんな様子かなと見ましたところ、役所の仕事というのは、ともすれば非人間的のようなところがあってですね、もっときめの細かい事ができそうだというのがありまして、何か言われるが如く2mおきに教室に座らせて、先生は前で黒板を後ろにして、何か喋っているのですが、もっと具体的にね、こういう時だからこそ、個別の、学習の遅れや学校の事で困っていることや、あるいは勉強でどうだとか、いじめがどうだとかいうことの</p>				

話をした方がよいのでは、ということをおアドバイスして回ったりしております。

東京の方が大変な様子でございまして、愛知県は最初は多かったのですが、南病院あるいはデイケアもああいう関係で、割に経路がしっかりと捕まえられていたというのがありますけれども、段々と広がっておりますので、どうかご自愛いただきますようお願い申し上げます。

さて、ICT 戦略推進プラン・官民データの活用云々という大変大きなタイトルがついていますけれども、こういう基本的なことはもっと10年くらい前からやるべきことであろうとは思っておりますけれども、いよいよ子ども達の、小学生中学生の1人1台端末という話が急に国から出てまいりまして、部屋に空調を付けて、お金の方が一段落だなと思ったら、今度は簡単に言いますとそうですよね、何万台という数字のハードウェアの方の、市長はつつい歳入・歳出のことばかり言葉が来るわけで困っておりますけれども、何と言ってもツールだと思っておりますので、ICTをどう理解し、どういう形で使うかということに、ここに知恵を働かせなくてはならないという風に思って、ハードウェアそれからプログラムも入れるだけではない終わり、では無いという事をぜひ今回も皆様方をお願いをして、5回にわたる会合にお出かけいただくという事で、ご快諾をいただいたという風に大変うれしくそして感謝申し上げます。

何と言いましてもこれからはこういうインターネット社会の中で、どう生活の中にうまく取り入れながらやっていく、ともすると今まで役所の方もですね、高齢者の方でそういう環境に馴染まない方は、相変わらず紙の情報というような事が中心でありますけれども、むしろ環境の方をそういう形で、むしろ高齢の方が大きな文字のスマホでご覧いただいたり、便利だねとこう思ってもらう方にシステムや使い方を変えていく必要性を感じております。使えない人は放っておくという気持ちは全くありませんので、もちろん並列で考えなければいけません。今回のこの会議で、お願いするのはむしろ本市としてICTを戦略的にどうやって使っていったらいいのかという、ある面では合理化のツールであったり、ある面では育つ物を記録をするというブログというような機能だとか、あるいは大きなデータの中で傾向を掴むとか、いろんなことが考えられると思いますので、今回はですね、いろんな分野の皆様方にお集まりいただいて、忌憚のないご意見を議論していただきながら、よりよい推進プランを作りたいと、こんな

風に思っておりますので、ご協力を賜りたいと思っております。皆様方におかれましては、ちょっと長丁場になりますけれども、どうかよろしくこれからお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。今日はありがとうございました。

3 委員委嘱

(事務局・情報政策課長)

では、続きまして、委員の皆様への委嘱に移らせていただきますので、よろしく申し上げます。

※市長より各委員へ委嘱状の交付

(市長)

私これで中座しますけれども、どうかよろしくご挨拶申し上げます。ありがとうございました。

4 委員自己紹介

(事務局・情報政策課長)

ありがとうございました。市長は公務のためここで退席させていただきますので、よろしくご挨拶いたします。

それでは、今回が初めての会合という事もありますので、就任していただきました委員の皆様へ自己紹介をお願いしたいと思います。では、安田先生の方から順番に所属とお名前と共に自己紹介をお願いいたします。

(安田委員)

皆様改めまして名古屋大学・安田でございます。どうぞよろしくご挨拶いたします。専門は社会情報学、メディア情報学を専門としておりまして、瀬戸市さんをはじめとして、様々な自治体とICTを活用した様々な取組をさせていただいています。どうぞよろしくご挨拶いたします。

(事務局・情報政策課長)

では後藤先生よろしくご挨拶いたします。

(後藤委員)

みなさんおはようございます。金城学院大学の後藤と申します。よろしくお願ひいたします。実は安田先生は私の恩師なので、同じように社会情報学の方を専門とさせていただきます。いろいろメディア通じて、いろんな SNS も含めて学生と一緒に地域情報だとか、映像を使っていろんな情報を発信することをやっております。引き続きよろしくお願ひします。

(事務局・情報政策課長)

続きまして濱村委員、よろしくお願ひいたします。

(濱村委員)

皆様はじめまして、NTT 西日本の濱村と申します。私共 NTT 西日本は通信インフラの会社ですので、元々は光ファイバーというところで業務・生業としているんですけども、昨今それだけではやはり事業がなかなか立ち行かなくなりまして、社会課題というようなものに対してどう解決していくのかというようなところに、次のビジネスチャンスを見出しながら、日々チャレンジをしているという過渡期にあるような会社でございます。なかなか苦労しながらいろいろやっているところもございますので、今回何か一つでも皆様の知恵と言いますかコメントができればと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(事務局・情報政策課長)

続きまして前田委員、よろしくお願ひいたします。

(前田委員)

日立システムズの前田みゆきと申します。私共の会社、日立システムズは主に自治体様のいろんな住基システムですとか税のシステムなど、そういう基幹システムのパッケージ提供というようなことを中心に行ってきた会社なんですけど、私自身はパッケージの提供に留まらず、自治体さんの業務改善のお手伝いですとか、あるいは自治体の窓口を住民の方が使いやすいものにするというような、そういうコンサルテーションのようなことを中心に行わせていただいております。ですから、今回の計画策定というものにも、ただのパッケージというようなことではなく、開かれた自治体にするにはどうすればよいかというようなことで、考えていかせていただければと思っております。よろし

くお願いいたします。

(事務局・情報政策課長)

続きまして羽根委員、よろしくお願いいたします。

(羽根委員)

私、IT サポーターまち LINKS の羽根由美と申します。よろしく
お願いいたします。15 年ほど、IT サポーターまち LINKS として瀬戸市
でお世話になっております。本業の方は 3 つの基本で仕事をしており
まして、一つ目は Web のコンサル、そしてそちらを使ったプロモーシ
ョン、2 つ目は ICT を使ったセミナー、3 つ目は県内にケーブルテレ
ビの会社がいくつかございまして、そちらのサポートセンターの方に
技術的なサポートをするような業務で会社を経営しております。IT サ
ポーターまち LINKS の方にももちろん私共の内容等を入れて仕事の方
をしておりますので、一緒にみなさんと瀬戸市の方でもお役にたてれ
ばと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局・情報政策課長)

続いて林委員、よろしくお願いいたします。

(林委員)

NPO 法人ハッピーリングの林ともみと申します。お渡しした名刺が
会社の名刺で、喋りの仕事をしておりますので、そちらの会社もやっ
ております。街づくりの NPO なのですが、子どもに障害があるという
ことで、瀬戸市障害者地域自立支援委員会のメンバーでもあり、ICT
の力で（障害が）重い子でも会話ができたりとか意思が通じ合ったり
というような現場をいくつか見させていただいております。また、コ
ミュニティラジオでラジオサンキューという地元の放送局がありますが、
そちらでは福祉番組を発信させていただいております。どうぞよ
ろしくお願いいたします。

(事務局・情報政策課長)

続きまして寺田委員、よろしくお願いいたします。

(寺田委員)

みなさん初めまして、瀬戸市教育長職務代理者という立場で出席を

させていただきます、寺田康孝と申します。教育委員を拝命して4年目になりまして、今年の10月で終わる予定になっております。この4年間ですね、瀬戸市28校小中があるのが、この3月で7校が閉校になりまして新しくにじの丘学園という学校が開校いたします。今、学校の現場でも、実際にICTを先進的に使っている小中のグループと、全くなかなかそういうものに手を付けていない現場と結構学校間の格差がありまして、今月の定期教育委員会でも、全校に無線LANの工事の予算が付いて、先ほど市長もおっしゃられていましたが、一人ずつにタブレット端末をつけていこうという動きになっていくのにまさしくこういう会議がですね、今後の子ども達のためには大事になるのかなと思っています。一年間長丁場ですけれども、専門家ではないのでなかなか専門的なことは申し上げられませんが、自分の立場の中でいろんなお話がさせていただけたらと思っておりますので、どうぞ一年間よろしくお願いいたします。

(事務局・情報政策課長)

続きまして戸田委員、よろしくお願いいたします。

(戸田委員)

改めましておはようございます。グリーンシティケーブルテレビでお客様サポートをしております、戸田と申します。28年度には瀬戸市の「せとまちナビ」というアプリの開発にも参加をさせていただきました。少しでもお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

5 委員長選任

(事務局・情報政策課長)

皆様ありがとうございました。続きまして、委員長の選任に移りたいと思います。委員長には当委員会を代表していただきまして、議長として会務を総括していただきます。当委員会の設置要綱第7条第2項におきまして、委員長は委員からの互選となっておりますが、いかがいたしましょうか。

(濱村委員)

ICT活用の社会システムに関する研究を多くされていて、新技術にも深い視点をお持ちの名古屋大学・安田先生にお願いできればと思っ

ておりますが、いかがでしょうか。

(各委員)

(拍手)

(事務局・情報政策課長)

ありがとうございます。ただいま濱村委員から安田委員の推薦がございましたが、拍手もいただきましたので、安田委員、よろしいでしょうか。

(安田委員)

よろしく願いいたします。

(事務局・情報政策課長)

ありがとうございます。では安田委員、委員長席の方へご移動をお願いします。

6 委員長挨拶

(事務局・情報政策課長)

それでは、委員長に就任いただきました安田委員から、一言ご挨拶をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(安田委員長)

先ほど市長がおっしゃったように、ICT と言いますと、どうしても技術とかハードウェアなどのキーワードが先行してしまう傾向にあると思っております。しかし、さきほどの市長や寺田委員のお話もありましたように、我々としましては、人とか社会といった、いわゆる生活者目線でこの ICT の計画を立案していくという立場で、委員の皆様方から忌憚のない意見をいただいて、温かみのある計画にしていきたいと考えておりますので、ぜひとも率直なご意見を賜りますようお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

7 副委員長選任

(事務局・情報政策課長)

安田委員長ありがとうございました。引き続きまして、副委員長の選任に移りたいと思っております。副委員長は委員長を補佐していただくこ

ととなります。当委員会の設置要綱第7条第2項におきましては、副委員長は委員のうちから委員長が指名することとなっております。安田委員長、どなたかご指名いただけますでしょうか。

(安田委員長)

これまでいろいろな自治体、特に瀬戸市において実証的な研究および活動をしておられる、金城学院大学の後藤先生にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員)

(拍手)

(事務局・情報政策課長)

ただいま、安田委員長より後藤委員の推薦がありましたので、後藤委員、よろしいでしょうか。

(後藤委員)

よろしく申し上げます。

(事務局・情報政策課長)

拍手もいただきましたので、副委員長は後藤先生にお願いしたいと存じます。

それでは、ここからの議事進行は委員長にお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

8 事務局説明

(安田委員長)

了解いたしました。それでは委員の皆様方、どうぞよろしくお願いいたします。それでは次第に従いまして、次第の4について、事務局からご説明をよろしくお願いいたします。

- (1) 瀬戸市 ICT 戦略推進プラン・官民データ活用推進計画骨子（案）について
別紙資料－1に従って事務局から説明。
- (2) プランの構成及びスケジュールについて
別紙資料－2に従って事務局から説明。

(休憩)

9 委員意見交換

(事務局・情報政策課長)

それでは再開いたします。安田委員長お願いいたします。

(安田委員長)

ご説明いただきましてありがとうございます。

今日は骨子案の検討ということで、計画のフレームワークを先ほどご説明していただいたところです。本日のミッションはこのフレームワークが実現可能かどうかまず確定するところだと思います。今後委員会が進んでいく中で、中身についての議論は深まっていくと思います。本日はこの骨子案について皆様のお考えをご自由にご発言いただければと思います。骨子案だけではなくて、今後の委員会での議論に関わるヒントになるようなご発言でも構いませんので、ぜひご自由にご発言いただければと思います。

それでは順番にみなさんの感想も含めたコメントをいただければと思います。では後藤先生からお願いします。

(後藤副委員長)

見させていただいて、お腹一杯といいますかこれ以上入ると大変なことになるようなプランになっていると思いますので、これに特に反対するというのではないのですが、一番大事なのはこういう ICT を含んだシステムなりプランを作る時の、これを実行していくためのある種の覚悟みたいなものが大事になってくるんですね、そのための覚悟をするための一つ一つの要素のようなものをきちんと洗い出していかなければいけないと思ったりもするが、最近、いろいろところでいわゆる想定外といったことが起こるじゃないですか？で、それがたくさん起こって来ているので、もはや想定外が許されなくなってきている時代になって来ているのかな、というのもあると思うんですね。なのである種のこの、今回こういうものを出すことによって、一つ一つの細かいところもそうですけども、リスクの想定みたいなものの、一つ一つに対して、何かある種こう行っていく必要があると思います。そのリスクの想定の中には、ある種の批判のようなものも含まれるかもしれないですし、これに対して抵抗するというようなことも

あるかもしれないです。ただ、それでもやるんならやるんだというだけの、ある種の覚悟と説得力を持たせなきゃいけない部分は多分出てくると思うんですよね。なので、あの、私も瀬戸市民ではあるので、瀬戸市さんからのいろんな情報も含めて、例えば子供の情報も含めてスマホなどで受け取ったりするんですけど、官民データの活用という中で例えば、それが含まれるかどうかわからないですけども、警察からの地域の治安ですとか、安心安全情報みたいなものも来るじゃないですか？そうすると親としては、子どもにそういう情報を、どこどこでこういうことがありました、となると、やはり、気をつけなさいよ、というだけで済ませられない部分も出てくるんですよね。なのでここにもあるように「子ども・子育てサービスの推進」とあるが、基本、子ども達というのは、ICT とかどうのこの以外にも自由にのびのびと体を動かして元気に遊ぶという環境が必要だったりすると思うんですけど、そういう情報が一方で入ってくると、それをやめさせてしまうとか、そういうことを委縮させてしまうような、そういう情報にもなりかねないというリスクがあると思う。なのでこういうものというのは本当に、良かれと思って出している情報でも実はそうじゃない方向に知らないところで働いていることがいっぱいあると思うので、そのあたりのことをどこまで盛り込んで行けるか、というところがある種、先ほど市長さんとか委員長もおっしゃっていたように、人に優しいシステムというか、人のためになるシステムというものに、おそらくつながっていくんじゃないかという風に思いますので、その辺のいろいろこの委員会の中で共有でき、そして、議論になっていけるといいのかなと思いますので、あの基本のこの骨格部分に関しては私は特に反対とかそういうことではなくて、これでいいのかなと思うんですけど、そういう細かな部分をどういう風にしていくかということが重要かなという風に思いました。

(安田委員長)

どうもありがとうございました。今、後藤委員から骨子案について、大筋はよいけれども、市側の覚悟についてご質問がありました。事務局として計画についての覚悟をお聞かせください。

(事務局・情報政策課長)

急に話題に出てまいりましたので、そこまで心構えが、というところですが、そこは十分リスクを踏まえた上で、どうしてもリスクは発

生するとは思いますが、その覚悟というのは当然市職員としてこういうものを作って行く以上は、責任はあると思いますので、これから十分覚悟を自分の中で練り上げていきます。ありがとうございます。

(安田委員長)

ありがとうございました。それでは続きまして濱村委員、よろしくお願い致します。

(濱村委員)

はい、私もこの骨子案を事前にお送りいただき見させていただいて、網羅的で（非の）打ちどころの無い計画だな、骨子だなと思って拝見させていただいておりました。事前にお送りいただいたものと今日のものを見比べてみて、多少変更とキーワードの追加があったように見受けられますが、大きな変更点はないと思いますので、大きくメスを入れるべき個所は無いと感じたところでございます。ご質問の趣旨に沿ったコメントではないかもしれませんが、梶田課長の方から優先順位を決める旨お話があったかと思えます。本日どこまで議論するのか不明ですが、優先順位を決める際、私のこれまでの活動からオリジナリティという軸があった方がいいと感じました。いろんな自治体さんの社会課題を拝見していますが、基本的には皆様どの自治体さんも直面している課題というのは似通っていて、似通った課題に対してアプローチをしているので、どこの自治体さんも活動が同じになっています。せっかく計画をつくるのであれば、やはりオリジナリティがあった方が瀬戸市ならではの感が出てくるかなと思います。1丁目1番地の軸に据える必要は無いと思いますが、一つの軸に据えられるとよいのではと感じたところです。理由としては、市民からの賛同の得やすさがあります。ICT 戦略推進は日本各地で活動されているので、社会からも注目されています。情報誌も含めると、日本において推進できているタウンはここだ、みたいな記事がメディアに少しずつ出てきています。取り上げられる自治体はやはりオリジナリティがあるところが多い印象を受けます。メディアへの露出が増えると市民の目に触れる機会も増えるので、自分のところの自治体ってがんばってるなーという流れができはじめ、それなりに市民の方からの理解も得やすいですし、推進力につながるのではと感じております。

もう1点は休憩の中の話で出た話ですが、一番最後のセキュリティの強化というところは、もちろん重要だと認識してまして、我々

の会社もセキュリティの強化は絶対だ！というポリシーで運用しておりますが、市民目線で考えた時に、セキュリティの強化がある意味邪魔をして利便性が損なわれるケースが少なからずあるのではと思っています。この問題は難しいバランスにはなりますが、利便性が損なわれないセキュリティの強化という観点で考えられると非常にいい評価ポイントになると感じています。以上2点です。

(安田委員長)

ありがとうございました。重要な2点を指摘いただいたと思います。こういった委員会に出られている委員の皆様は同じような感覚を持っていらっしゃると思うのですが、だいたい同じような内容の計画が出てくると。これは仕方がない部分もある意味ありまして、他の自治体がやっているのに瀬戸市はやってないのか、というような話もありますので、スタンダードのところを抑えるのは重要だと思います。しかし、まさに濱村委員がおっしゃったように、瀬戸市はこれだというようなところがあると、市民に対しても、市外の方に対しても非常にアピールになると思います。私も関わらせていただいている小学生向けの Seto CG Kid's Program は一つの尖った事例だと思います。最近中日新聞で紹介された瀬戸市さんの観光の施策。観光資源がそんなに無い瀬戸市であってもこれだけのことができるんだ、ということその記事で拝見しました。そういった取り組みなども是非アピールされて、ほかにもいろいろあると思いますので、瀬戸市の ICT 戦略の中でこんなことが目玉だよ、という風に表に出されるといいかと私も思いました。

2点目に関しましても全くその通りで、セキュリティの強化と利便性のバランスの取り方、ここはあの一どの自治体も同じだと思いますが、なかなか難しい話であるというのも事実ですけれども、ぜひ知恵を絞って冒頭申し上げましたように、市民の皆さんが本当にいいなと思うサービスを、セキュリティを守ったままでどうするかというところを検討いただければと思います。事務局からも今の濱村委員の発言に対して意見をいただければと思います。

(事務局・情報政策課長)

オリジナリティの部分は、我々が市長にレクチャーした時にも市長の方からもありまして、やはり瀬戸市らしいものを作るようにというところで、最初の説明で抜けてしまって申し訳なかったですが、そこ

の部分でやはり、市長も言うように第6次瀬戸市総合計画でも進めている、特に力を入れている人づくりのところで、先ほど安田委員長からも言って頂いたとおり、Seto CG Kid's Program というものを10年やっておりまして、他の市に例を見ない、でも今後の社会、デジタル社会を考えると結構必要な人材を育てているというところで、最近特に注目もされて、この前もロータリーさんと一緒にいろいろやらせていただいているという状態で、そこも一つ目玉じゃないか、あと小中一貫教育というものもここでうまくやれば、小中一貫校だけでなく市全体で小中一貫教育をやっているんだよというのを、ICT 絡めてうまくやれば、その一つ目玉になるだろうということで、まあ瀬戸市らしさと言うとそこを前面に押し出していくのは大事だよねというのは市長からも頂いておりますので、そういった内容も踏まえられればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(安田委員長)

はい、ありがとうございます。それでは続きまして前田委員、よろしくお願いいたします。

(前田委員)

私も全くと言っていいほど同じことなんですけども、実際ここに書いてあることは、もう概ね皆様いろんな自治体さんで作られている計画と同じようなことなんですけど、今までもおっしゃられていたように、やっぱり私としても特徴が明確にならないとちょっとあの、みんなと同じじゃないかというような話になるのかな、というところは正に同様のことを思っていたのですが、その中でひとつだけ、これいろいろご議論いただければと思うんですが、これご提案なんです、できればここに書いてある言葉をもう少し市民目線の言葉で、わかりやすい、ある意味特徴的な言葉で書いた方がいいんじゃないかなという風に思いました。例えばこの「基本目標」も、「まちの活性化」「生活の利便性向上」というとたぶんこの街も全部これと同じことを書いていて、それが4つなのか5つなのかぐらいの違いしかないと思うんですね。であれば、例えばこの「まちの活性化」であったら、もうほんとに、さきほど人づくりというようなことをおっしゃっていたので、何て言うんですか、新しい例えば産業の育成と小中一貫による人づくりとかも、本当にあの、実際のイメージができるような言葉に置きなおして、標準的な言葉じゃなくて、この言葉自体をわかりやすく

みなさんが理解いただける言葉に置きなおすのが一つの解決策かなあという風に思いましたので、ここはご議論いただければと思うんですが、そんな形でやっていただけると、いわゆる一般的な推進計画は市民のみなさんにとって身近なものに感じられるんじゃないかなという風にちょっと思いました。

それから二つ目は、これも全く先ほど濱村さんからいただいたようなことと同じなんですけど、まさに利便性とセキュリティはトレードオフだと言われておりまして、両立が大切だというのはいろんなところで言われてるんですけども、この計画の中で、ぜひですね、大切なんだけどこういう考え方で両立させるんだ、というようなこれもある意味具体的な事例というか、考え方というか、それを明確にした上でトレードオフ、両立なんだよという風に言わないと、結局両方大事ですよと、まあいいように調和を取って推進してしまいたいというのであれば、結局どうすればいいのというのがわからないような形になるので、一つでも二つでもいいので、こういう場合はこちらを優先しましょうとか、人命が優先のような、例えば今回のパンデミックみたいなことになれば、ネットワークの強靱化なんかも場合によってはやめてもいいみたいなことをですね、どこかにちょっと具体的に書くことができれば、より実行性に富んだものになるかなという風に思いました。

(安田委員長)

ありがとうございました。非常に具体的なご提案をいただけたと思っております。一つ目は確かに冒頭申し上げたように、心のこもった計画にしたいというところと通じるところがあり、共感できました。市民目線の言葉を計画の中に入れたらいいのではないかとということです。このあたりもぜひ、サブタイトルに入れるのか、形式的な言葉に加えて市民のみなさんがわかりやすいその言葉で、理解できるような工夫をしていただければなと思いました。

それからセキュリティに対しましても非常に具体的なお話をいただいたと思います。こういう理由だからこのセキュリティーなのだという市側の考え方を示すという事と、提供サービスの性質によってセキュリティと利便性の割合は変わってくるということを伝えられるような工夫をしたらいいのではないかとのご意見があったと思います。どうでしょう、事務局の方から？

(事務局・情報政策課長)

言葉を柔らかくというところはいろいろ考えたんですが、6次総の元々の都市像というのがあって、そこが目標にしていること、という言葉からあまり遠ざけてしまうと市役所の中でわかりにくいというのがあってこの言葉を選んでいるのですが、「まちの活性化」という言葉もちょっと柔らかくした形で、元々は「地域の活性化」というような書き方をしてあったので、少し落としたつもりだったのですが、まあその考えていく中では、「街・人 元気」というようなことを目標にしてもいいよね、というような話は出ていたのですが、ちょっとごめんなさい頭の固い市役所職員で、その6次総に合わせて、という形でこの形になってしまっているんで、ここはもし皆さんでご議論いただいて、いい言葉があれば、私も固いなどは思っていますし、もしこの場でそういう話が皆さんでできれば、それでありがたいなと思いますので、よろしくお願いします。

(安田委員長)

タイトルをスタンダードなものに合わせていくというのは大事なことだと思います、前田委員がおっしゃったのは、説明する言葉としてわかりやすいキーワードがあるといいということだと思います。今後詰めていく中で、サブタイトルを加えるというのも一つだと思いますし、本編の中でわかりやすく説明するというのも一つだと思います。今後、工夫してやっていける話だと思います。骨子に関しては前田委員もこのままでいいということだと思います。

それでは続きまして、羽根委員の方から。

(羽根委員)

みなさんのいろんな意見をお聞きして、なるほどということ、骨子については私もこれでいいのかなと思っています。みなさんのご意見とちょっと逸れてしまうかもしれないんですけど、私ができることは何なのということを考えてみました。ICTを使ったセミナー等をここ15、6年、瀬戸市、各自治体、現在は愛知県の方でネットモラルということで年間200校の小中学校に行き、説明等、子ども達や保護者に指導をおこなっているんですね、会社のほうなんですけども。そういったことなんかでもやはり自治体にはわからない、実際の現場の声をみなさんに上げていくのができるのは私かなという風に思いました。あと年配の方にICTの技術やいろんな使い方を指導するという

のも私共やっているんですけれども、やはりさっきおっしゃっていたとおり、難しい言葉ではなかなか通じないんですよ、難しい言葉をわかりやすい日本語に置き換えて伝えることによって、どんとこう私たちの話に入ってきたりします。ICT の中でちょっとずれるかもしれませんが、瀬戸市、広い街です。それぞれ一人暮らしのシニアの方がいっぱいいらっしゃると思うので、お買い物にも困っているでしょうし、あとあのPayPayとかそういったものの使い方一つもわからないんですよ。そういったものを瀬戸市ならでは、一人一人に教えていくことは難しいんですけども、集めた形とかほんとにみんなが使いやすい街にしていけるのもいいかなという風に感じました。少しいい言葉にはならなかったかもしれませんが、私の意見は以上になります。

(安田委員長)

ありがとうございました。やはり同じように計画案を作っていく中で、わかりやすい言葉をぜひお考え頂ければと思います。そして他の自治体さんでもこういう計画作りに何度か関わらせていただいたんですけども、市民のみなさんに見ていただけるような計画にするのが大事です。たぶんこれからみなさん知恵を絞られて作られていくと思いますけども、文章だけが羅列してあるものは誰も見たくないの、ぜひポンチ絵であったり色使いであったりとか、デザインを考えていただきつつ、言葉ももちろん優しい言葉を使っていたきながら、市民の皆さんに見ていただける計画書にご配慮いただけたらと改めて思いました。よろしくお願いいたします。

(事務局・情報政策課長)

市長からも温かみのある計画と言われていましたので、そこは重々、見やすいもの、見ていただけるものという目線で考えたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

(安田委員長)

よろしくお願いいたします。では続きまして、林委員よろしくお願いいたします。

(林委員)

はい、同じようなことにやっばりになってしまうんですが、言葉があ

の、もうそもそもこの「瀬戸市 ICT 戦略推進プラン・官民データ活用推進計画」、これ自体こう固いので、やはりあの基本目標とかを見た時も、生活の利便性、利便性って何？ってもしかしたら思う人もいるかなという、もうちょっと「まちの活性化」というのも例えば「にぎわう街づくり」とかももう少し優しい言葉で表現した方が、何となくこう見る気になるかなというところちょっと失礼なんですけど、せっかくすごくいいものを作っても、もうここで止まっちゃうと見てもらえないというのが残念ですし、今みんなに、誰にも優しい計画というか、書き方ができるといいかなという風に思いました。私、ラジオサンキューで情報を発信する立場にあるんですけど、ちょっとずれるかもしれないんですけどやはりすごくいいものを作って、こういうことをやってますよ、せとまちナビなんかも私大好きで、しょっちゅう見てるんですけど、え、そんなのあったの？という人が必ずいるんですよ。例えばこんなことができ、ここで閲覧できますよという風に広報にも載っているし、発信もしても、そういうような何か発信の仕方が悪いのか、情報をキャッチする側の問題なのか、そういうことも考えてやらなくちゃいけないかなと常に思っています。あとやはり ICT ってこう、進みが早いので、この5年の計画というのがどこまで、もう途中で変わってくるものっていうのは絶対あるだろうなって、あ、これあまり良くなかったよね、まあ見直しを途中でされると思うんですけど、絶対出てくるんじゃないかなっていうことも感じてます。これからの話になると思うんですけど、ギガスクール構想のこともあって、一人一台タブレットということになっていくと思うのですが、私、瀬戸つばき（特別支援学校）の評価委員もやってまして、南山口町の、県立なので教員が一台タブレットがあって、すごくあの先生方が使ってかなり便利は便利なんですけど、先生方のスキルも違って、使えなかったりってことになるので、「ICT 人材の育成」に入るのか、どっかの分野には入ってくると思うんですけど、子ども達がスタートする前に、先生たちが、これ、便利なものだな、いいなっていう風に思ってもらえるような工夫を、みんながまず理解したいな、知りたいな、やってみたいな、って思うような計画っていうのが大事かなって思います。

あとやっぱりそうですね、目玉っていうのが必要かなって、どこも小中一貫、水無瀬も長根と陶原と連携してという風に、陶原の先生が水無瀬に見に行って、水無瀬の先生が長根に見に行っていることをやっているの、これが ICT が進んでくると、オンラインで授業をやったりということもできると思うので、せっかくにじの丘ができるの

で、それをメインにするか、何かメインを作っていくといいのかな、という風に思いました。

(安田委員長)

ありがとうございました。林委員からも非常に重要なご指摘をいただいたと思います。私の理解ではこの計画が市民を含めたステークホルダーのみなさんにとって、自分事と考えられる計画にする、というのが林委員のおっしゃったことかと理解しました。

(事務局・情報政策課長)

元々のスタートは我々の青写真を作りたい、今後自分たちがどう仕事をしていけばいいのかの基本となるものを全庁周知というつもりでいたのですが、今のご時世、市民の方々のためにという考え方をしなければいけないとなると、その目線を入れた、読んでもらえる見てももらえる理解してもらえるということは大変重要だと思いますので、我々の指針にもなりつつ市民のみなさんのご意見ももらえたりそういうようなものにもなるように、作って行きたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

(安田委員長)

たぶんこういった計画、先ほど林委員からもありましたように5年という長いスパンですので、ICTも進化が大変早いので、見直しがとても大事だと思うのですが。

(事務局・情報政策課長)

そうですね、そのつもりで5年という形、10年ではなく5年にしたところもあるんですけども、3年とかいうとなかなか作り変え作り変えで終わってしまうというのもあるんで、これが日進月歩なのは我々も承知なので、できれば前の章立ては先ほど言ったように将来を見据えてなるべくぼんやりでもないですけど、こういう方向に行きたいんだということをしっかり謳っておいて、さほど変わりが無い形で、施策だったり事業のところで、今に沿ったものというのでどんどん塗り替えられるように、とは思っていますので。見直しも含め、改定も含め、やっていこうとは思っておりますのでよろしくお願いします。

(安田委員長)

こういった計画は、作った後、魂を入れていくところが大事だと思っています。そのためにはやはり先ほど林委員がおっしゃったように、市職員だけではなくて、ステークホルダー全員がこの計画を身近に考えられるような仕掛けづくり、といったものをお考えいただくと思います。この内容の詳細は下記の URL にあります、というだけではなく、例えば QR コードが街中あちこちに掲げてあって、市民があの計画の今月の状況はどうなったっけ？と思った時にすぐに確認できるような環境があると良いと思います。適宜この計画の進捗状況をきめ細かくお伝えできるような仕掛けがあると、この計画が生きていくという風に思いますので、ぜひその辺りも考えていただけるとよろしいかと思います。

それでは続きまして、寺田委員お願いします。

(寺田委員)

後ろの方に来れば来るほど言う事もないんですけど、今日、どこまで行くかというところで計画の骨子と構成については先ほど先生方もおっしゃられたとおりで特に何か私から申し上げることは無いと思います。このままでよろしいかと思います。これがこのまま市民の方に落ちていくというと、先ほどおっしゃられているとおりで見にくいところとか、僕も言葉として、「シームレスな行政サービス」と言われてもどんなイメージだといっても、なかなか伝わりにくいのかなと思うので、その辺は噛み砕いて、地域の市民のみなさんに落ちていく時はそのような言葉を使った方がいいのかなというようなことも思います。先ほど子育て世代を取り込んでいく、というような言葉があったと思うんですけど、そうするとやはり学校というのが自分の立場で申し上げると今、新しい学校もできたし、先ほど林さんがおっしゃられた県の方につばき、という特別支援の学校も瀬戸市にあるので、この学校というのがキラーコンテンツで、他市町から入ってくる人を呼び込むものかなと思うんですよね。やはり今、子どもが少ないので、子ども達のために時間とお金をたぶん、子育て世代と親世代は使うと思うので、よりそれが魅力的な瀬戸市の一つのツールになるように ICT をどう活用していくかということが、大事かなと思います。小中一貫教育と言っても、実際には小中一貫校が 4 月からできるので、他の既存校も中学校をハブとして、小学校と一緒に小中一貫教育をやってみましょうということにはなっているんですけど、なかなかやっぱり、地続きでもないの、それがまあ各学校何をやっているかという、

見守りとか地域の年配の方が学校に関わって、コミュニティスクールのプレのような感じの形成をしていくような状況だと思うので、実際に学校の中で（ICT を）使っていく子ども達などはいろんなものを学習してくのがめっちゃくちゃ早いと思うが、取り巻きの、コミュニティスクールと言った時に、年配の方だとか先生方だとかに、どうこれを活用していってもらおうかということも 1 つ大事かなと思います。私も当然瀬戸市の市民なのですが、この間、町内総会が 3 月にあったんですけど、ほぼほぼお年寄りなんですよ、お見えになるのが。僕が一番若いくらいで、お話をすると昔の話しか、言い方に語弊があるかもしれないが次の世代のこととかなかなか話が出てこなくて、昔はこうだったという話が多いので、そういう方にじゃあこれでって言って、利便性って言っても、たぶんその方々にとっては今までのペーパーが無くなることの方がすごく不便に感じるので、こういうことをやることで、こんなに便利になりましたよ、っていう、なんとなくビジブルに、こんなイメージだからこれを今やっていかなきゃいけないんですよ、というようなことをもう少しわかりやすく入れた方が賛同が出やすいのかなというのと、今は僕らからしても自分で情報を取りにいかないで情報って入ってこないの、そういうのを、リテラシーという言葉もありますが、うまくこう、公平的に情報が入るようにするかっていうのを、自分もプロではないので考えていかなきゃいけないんだろうなっていうのを少し思いました。以上です。

（安田委員長）

ありがとうございました。また重要なコメントを頂きました。小中一貫校は瀬戸市として、非常に目玉なのはもちろんですけども、例えばリタイアされた方とかが、どのように学校教育に関わっていけるのかというところの視点、ここも重要だと私も思っております。その中で、いわゆるデジタルデバイド、ICT に慣れていない方に対して、このよさをどのように伝えるか、ということが大事だというお話を頂いたと思います。私の研究室でもこの課題に対する研究をしています。ステレオタイプ的に判断して、高齢の方はどうせ ICT は使えないという極論があります。私たちの研究室ではスマートスピーカー、AI スピーカーを高齢の方・独居の方にお使いいただく実証実験をさせていただいています。その中でわかったのが、もちろん初めの使い方の説明、これはしなきゃいけないんですが、一回それをすると大変よく使ってもらえるんですね。研究に協力板でている独居の方に、テレビや

居間の電灯をスマートスピーカーでコントロールすることをしていただいたら、もう便利でしょうがないということで、もうこれ私買うからと言われました。まるで Amazon の営業になっているんじゃないかというような (笑)。つまり、こんなに便利なんだよということを実際に体験していただくことが大事だと思います。ただ ICT 使ってくださと言うだけでは駄目で、生活の中で ICT がこんなに便利なんだよということを伝えることが大事だということを改めて感じています。このようなこともどこか計画の中に折り込んでいただけるとよいと、寺田委員のお話をお聞きして思いました。いかがでしょうか。

(事務局・情報政策課長)

そうですね、なかなか高齢者・障害者の支援というところは行政側から言うと頭の固い話ばかりになってしまって、先ほど言われたみたいに、手厚くやってあげてなのか、まあちょっとここは我慢してもらってになってしまって、ここ (骨子) を見てもらっても、見守りサービスとユニバーサルデザインという形になっているので、ここに何かいい事例が書けないかなというのもありましたので、そんな目線も入れてこの辺を厚くしていけたらと思いますので、大変貴重なご意見でございました。

(安田委員長)

それでは最後に戸田委員、よろしくお願いします。

(戸田委員)

みなさんのように格好いいことは何も言えないんですけど、半年くらい前からちょうど子育てが始まりまして、瀬戸市の方で保育園・幼稚園だったり、病院だったり、せとまちナビを使ったりしているんですけど、今のところ何も不便を感じたことが無くて、快適に生活ができてるんですが、それがより良い、より便利になったらいいなあということで、少しでもお役に立てればと思います。以上です。

(安田委員長)

ありがとうございました。子育て、何も問題なくやれているということはとてもいいお話が聞けたと思います。子育てに関して私たち、またこれ私の研究室の話になるんですけども、チャットボットを名古屋にある子育てグループのみなさんに使って頂いています。かなりこ

れ良くてですね、世代間ギャップというのが言われて久しいんですけど、子育てするのに情報が何もない、わからないお母様方とお父様方がですね、チャットボットで情報共有することをやられています。ICTの活用という中で、チャットボットを利用した子育て支援もテーマとしてはどうかなあと思って聞かせていただいたんですけども、いかがでしょうか。

(事務局・情報政策課長)

AI チャットボットは県の方で、愛知県下全市町村で考えてまして、一部サービスはスタートして瀬戸市は出遅れているところがあるんですけども、やはりあの AI チャットボットを入れると、HP 上にどんと置いておけば、市民の方 24 時間いつでも、市役所が閉まっている時でも聞けるというのと、我々も電話で受け答えする分が減るであるとか、我々の中でも職員同士の事務の仕方の引き継ぎの意味でも、わからないところはそれに聞けばいい、というのもあって、業務の効率化にもなり市民の利便性の向上も、ということで、愛知県の方が令和 2 年度始める市町もありまして、我々が 3 年度を予定しておりますが導入予定なので、その辺は事務として上がってくるとは思いますが、その辺の利便性をいかに訴えられるかということも我々が予算を確保していく上でも重要なので、そんなところの、こんな役に立つんだよ、ということがこの計画の中で取り込んでいければいいなと思っております。

(安田委員長)

チャットボットは、通常考えられるのは業務の効率化を目的とします。一方、例えば子育てであれば、子育てをしているみなさんの生の声が市役所内に届くという、その、まあビッグデータですけどね。そういうものがとても重要になってきます。その中にこれから施策を考える上で、重要なタネが潜んでいるのではないかと思います。市民の皆さんとのチャンネルとしての ICT の利活用の中にチャットボットがあるとお考えいただくと、より新しい使い方になるのかと思いますので、ぜひその辺りもお考えいただければと思います。

一通り、皆様方順番にご意見をお聞きしました。初回にもかかわらず、非常に良い意見が出て、私も喜んでいるところですが、まだ少し時間がありますので今度は自由に、まだ言い足りないな、こういう視点はまだ言ってなかったなというところをぜひ、ご発言いただければ

と思います。

骨子だけではなく、ご紹介いただいたチャプター構成も含めてご議論いただければと思います。

(羽根委員)

今、AI チャットボットの話が出ましたけれども、高齢者の方など、さきほどの話の続きですが、やはり一回使ってみて、さきほどのスマートホームじゃないですけど使ってみて、すごい便利でよし使おうという気持ちになってもらうのが大事だと思います。

もう一つ林さんの方から、全然また話が飛びますけども、学校教育の話もそうなんですけども、とある別の市なんですけども、それぞれの、ICT の便利さとかそういったものを、小学校がいくつかあって、子ども達と同じ学習ができるようにということで、7、8年私勤めたことがあるんですけども、やっぱり市としても考えが変わって、学校としても考えが変わって行って、結局は同じレベルの教育ができなかったというのがあるんですね。瀬戸市さんも学校さんによってはすごく ICT に長けてる先生もいらっちゃって、そういったものをその学校その先生だけのものじゃなくて、瀬戸市のデータベースの中に置いておいて、どこの学校からも引き出せて使えて行ける、そんな風にしていくと、良いのではないかなと、ちょっと今、林さんの意見を聞いて、少しずれてるかもしれませんが、ふと思い出したので今のうちに伝えておこうと思って、お話させていただきました。

(安田委員長)

ありがとうございます、とても大事なポイントだと思います。寺田委員からも何か学校関係でありますか？

(寺田委員)

ありがとうございます。今の話でいくと、瀬戸市この3月までは28校あって、補助金とかでそういうのに長けている校長先生だとかが、ICT を先進的に導入して小中で連携している学校もあれば、なかなか予算もつけてもらえなくて、大きいああいうスクリーンを階で一台ずつしかなくて、それを順繰りで利用するというようなことしかできないですけど。いろいろ学校訪問などで子ども達を見ていると、ICT を活用した授業だと全然食いつきが違くと、普通教科書より色も鮮やかですし、実際に動いているのと、書き順なんかも先生がこう、手でや

ってくれるよということで、みんなけっこう授業に集中できるっていうのと、その一つのソフトが確立できると、当然他校の先生も同じソフトとかいろんなやり方で、利用するのに一々テストも含めて自分で作る必要が無くなって、それを利用していけば、先生のいわゆる残業だとかそういう時間が他の事に使えていくので、それを、さきほどとつながるかわかりませんが、そういうことをしていくことが必要かなと思います。ただ、僕もわかりませんがこういう ICT とかを導入していくことで、ソフトウェアがどんどん変わっていくと、それに伴う予算等も同じようにその、Windows のサポートが終了すると更新していかなければならないように、莫大なお金がかかっていくのかなと思うんですけど、その件というのは、ICT とはあまり関係ないのですかね？逆に質問のようで申し訳ないのですが。

(安田委員長)

今のポイントはとても大事で、もちろん基礎的な予算整理は必要だと思うのですが、大事なのはそれに載るコンテンツです。そのコンテンツとは正に羽根委員がおっしゃったように、情報基盤が変わっても生き続けると思っています。なので、良質なコンテンツをしっかりと貯めていき、みんなで共有していくことに意識を集中した方がよいのではないかと思います。Windows などもセキュリティのサービスが終了した時点で通常の業務に使えなくなりますよね。それは非常に困った話なのですが、Windows を使っていくとすれば、そこにかける予算は仕方がない、OS のような情報基盤ではなくてその上のコンテンツ部分で、良いケーススタディをみんなでどのように共有していけるか、というところがミソかなと思います。前田さんどうでしょうか。

(前田委員)

ベースのご予算みたいなものは、最低限必要になってきているんですが、むしろそこはですね、どんどんお高くなってきているというよりは逆でして、さきほども我々の中でお話ししていたのですが、ほんとのベースの情報システムの OS みたいなコストなんかはどんどん今、下がって来ています。とはいえ、今まで導入してなかったものを導入するというそこはもちろん（コストが）かかるのですが、導入されたものの基礎的な、基盤部分のコストは、標準化というものがされたり、オープン化というようなことが行われることにより、どんどん下がってきているので、一旦今回、例えばギガスクール等で導

入されたら、年間維持コストというのは、これからたぶんどんどん下がっていくことになると思うので、そこはあまり心配されなくてよくて、基本ソフトのところは下がっていくんですけども、上に載るコンテンツのところを、いかにその、安くなった費用で、みなさんやりたいことをいろいろ開発していただくということになると思うので、そこにちょっと力を入れていただくと、いいかなと思いますし、標準化されることで、上のコンテンツもみなさん簡単に作れるようになっていきますので、まさにあの、作るのは逆に言うと、もうあまり気にしなくて今やいいのかなとちょっと思っています。

(安田委員長)

ありがとうございました。通信料金も安くなってきていますが？

(濱村委員)

我々のところも、さきほどお話しさせていただいたように、ビジネスという意味でいくと痛い限りでございまして、グループ会社のドコモ等の携帯キャリアの価格はどんどん下がっており、半額近くまですすんでいます。価格破壊が起こり始めていると感じています。私は経営者ではないので無責任な発言はできませんが、ある意味致し方ないところがあって、通信サービスを提供させていただき、その通信を活用していただいて、新しいビジネスを作っていただくとか、便利にご利用になっているその先には新しい領域で産業が生まれるでしょうし、我々もそこで新しいサービスを開発することでビジネスをしていくという流れになってきておりますので、動向という観点では、前田委員がおっしゃられている内容、林委員がおっしゃる内容、委員長がおっしゃる内容に同意でございます。

(寺田委員)

長くなって恐縮ですが、もう 1 点よろしいですか？またあの子ども達のことばかりになって恐縮なんですけど、今現場なんかでいくと、みなさん子ども達も高学年になったり中学生になると、スマホを持つようになって、アプリケーションで LINE だとかいろんなものを入れたり、その中でいじめの問題など、今までなかったので先生達も想定していないいろんなことがあったり、親の持っているタブレットで Youtube を見たりいろんなことをやるので、夏休み前など瀬戸警察から講師の方を呼んで、反社会勢力とつながらないように指導をしたりするので、そこも留意するところかなと思いましたので、意見を述べ

させてもらいました。

(安田委員長)

ありがとうございました。大事なポイントだと思いますので、そこもぜひ入れていただけたらと思います。

(林委員)

私6次総(第6次瀬戸市総合計画)の評価委員もやっているんですけど、その時に出た意見の中で、たぶんもう見れるようになっているのでいいかと思うのですが、ソフトウェアの会社にいらっしゃる委員の方が、ソフトウェア産業等の誘致って、ソフトウェアの産業をここに誘致して何がいいのですか?という意見が。要はどこにいても仕事ができるので、そのときも今日は午後からリモートワークですと言われていたんですけど、(今回の骨子の)項目の一番上に書いてあるんですけど、(ソフトウェア産業等の)育成はいいと思うんですけど、どんなメリットがあるんですか?ということをおっしゃっていましたので、こういったことがあったのと、あとさきほど出ていた高齢者・障害者への支援という部分、やはりこのところはすごく難しいなと思うんですけど、やはり障害者にいいもの、高齢者にいいものというのは、けっこう一般の方にもよかったりして、例えば、弱視とか視覚障害の方が特別な教科書を持つんですけど、これがデジタル教科書でしたら普通に拡大できたりとか音声聞けたりとか、視覚障害の方にとっても聴覚障害の方にとってもいいのかなと。港特別支援学校で在宅ワークの模擬授業というのを見たんですけど、企業の方がいらっしゃって、教室を家に見立てて他のところと繋げて、そこで仕事をしているというやりとりをしていたんですけど、これも障害のある方だけではなく引きこもりの方とか、子育てが忙しくて外には出れないけど仕事したいとか、そういう方にとっての何か支援のような、そういうものもあるといいのかなと思っています。

(事務局・経営戦略部長)

ソフトウェア産業等の誘致というのは以前から、それこそ CG Kid's Program などをやり始めたところから、一定程度、そういう人材を育成していこうということをやり始めています。要はお子さんを育てることだけではなくて、将来瀬戸に住んでいただいて、瀬戸で正直な話、税金を納めていただければありがたいな、というところです。それは

今度、その方達がどこへまた出ていくかわからないんですけども、もう一つ、これは産業面での視点、といいますか経済面での視点で総合計画は作っていますので、例えばコールセンターとかがあるところには、そこにたくさん人が来るわけで、そういう一つの CG だけではなくて、今 CG やっていますのでそこがたぶん一番瀬戸の売りにはなっていると思うので、そこに住んでいただいて、そこで東京の方とかいろんところで事業をしていただくことも一つの方法ではないのかな、ということで、今 10 年間やってきた先行してきたことを、形に表していきたいなということでこれを今、総合計画の方で書かせていただいているということです。これが本当にそうなるかということは、これからきちんとやっていかなければいけないですし、今後の検証といいますか、今、林委員の方にやっていただいているようなところで、いや、もうちょっとこうやった方がいいんじゃない？ということも今後はあるのかもしれませんが。とりあえずソフトウェア産業の誘致・育成については、そういうことも考えながらやっているということでご理解いただければと思います。

(林委員)

うちの息子も CG Kid's の 1 期生で (笑)

(安田委員長)

林委員ありがとうございました。ユニバーサルデザインということももちろんあるんですけど、事務局としてはそれを意識されていらっしゃると思いますので、全ての人にとってハッピーな ICT 活用という視点がぜひ欲しいということでよろしくお願いします。

その他ございますか？

(後藤副委員長)

これは私からは質問みたいな形になるんですけども、この ICT というプランからはちょっと外れるというか、ある種の大きな背景的なものになるのかもしれないのですが、教えていただきたいのですが、瀬戸が今まで、こう誇れるまちとありますが、誇ってきたものというと、学生に聞いてもそうなんですけども必ずせとものって言うんです。私もかれこれ 10 年近く瀬戸市のいろいろなものに関わらせていただいて、陶磁器産業というのが元々大きな基盤としてあるじゃないですか？ここ数年、これは私の感覚なんですけど、若干、瀬戸市が脱陶磁

器産業をし始めているのかな、という印象が少しだけあって、なんといいですか新しい物新しい物というのは何となくわかるんですけど、なんというんですかね、こういうプランの中でも何もこう陶磁器という言葉も出てこなくなってきたんですよね、最近はいろんな資料を見るのもそうなんですけど、新しい方向に舵を切ろうとしている感じはすごくよくわかるんです。何も陶磁器産業を守れとかそういうことではなくて、この辺の瀬戸市さんの考えというか、どういう方向に行こうとされているのかというところを、ある程度知ったうえで、こういうのも少し考えたいな、考える必要もあるのかなというのは少し私も思うところがありまして、その辺のところを非常にお答えにくい質問かもしれませんが、ちょっと教えていただけたらなという風に思っています。

(事務局・経営戦略部長)

元々6次総合計画の「住みたいまち 誇れるまち 新しいせと」というのは、誇れるまち、というところは、やはりそこに住んで、瀬戸の中でいろんな経験をしたことによってやはり愛着とか誇りというものが出てくる訳で、やはりそうならないと、瀬戸市に引き続き住んでもらえないだろうなど、ということが根底にあるんですね。それで、誇れるまちというのを我々としては言葉として選んだということです。今のご質問の、陶磁器産業についてはたぶん、もうご承知のとおり事業所数も従業員数も減って来ています。これはだから産業としては、あたらしい例えば電磁器産業とかそういうのが出てこればまた違うところに行きますけど、いわゆる old の陶磁器産業については、たぶん産業としてはもうこう下がってくるのかなあと。ただ、一定規模を確保しながらやっぱり、文化ですとか歴史とか、そういったところでの陶磁器・焼き物が我々としてはきちんと意識をして、それこそ瀬戸で何？と言ったらせとものだよ焼物だよねというところのアイデンティティとか誇りとして持っていただくような形で、進んでいければいいのかなという風に思っております。

(後藤副委員長)

ありがとうございます。昔、陶都瀬戸宣言というプランに私も関わらせていただいたんですけど、その時の何と言いますか陶磁器でいくぞというような勢いからは若干トーンダウンしてきたのかなという感じもするものですから、まあトーンダウンというか少し方向性を変え

られたのかな、という感じもちょっとするものですからお聞きしたんですけど、やっぱり、外から見ると瀬戸のイメージってそこがすごく強いんですよね。それで、そういうものを守ろうとしたりとか、そういうもので考えてみえる方がいて、そういう中で新しいものが入ってくるとどうしてもそれをこう、それに対して拒絶するようなそういう動きとかは一定数出てくるのかなと思いますし、そういう人達のことでも考えた上でのプランというものを考えていく方がいいのかなと思ったりもするんですけど、その辺のところの、市に付度するわけではないですけど、何となくどういう方向性を考えているのかなというところをちょっと示していただけたらと。

(事務局・経営戦略部長)

ちょっと言葉足らずのところもあるかもしれませんが、別にあの陶磁器産業を全部産業としてあきらめているわけではなくて、きちんと新しい革新とか、例えば携わっている方、ツクリテ支援もやっていますし、やっぱり新しい方達が出てきて、その中でいわゆる焼き物、陶磁器の関係ならより拡散するとか、脚光を浴びるとか、そういうこともやはり私共としてはやっていかなければいけないと思っておりますので、そこは瀬戸のアイデンティティ、大きな一つの誇れるところだという風に思っておりますので、例えば ICT 戦略プランの中でそれをどう落とし込むか、というのも今後の、どこで出るのか、またこの施策はあくまで主な例ですので、また皆様のお話の中でそういったものを、こうやってみるともっとやれるんじゃない？ということがあれば、またプランの中に入れていければいいのかなと。

(事務局・情報政策課長)

すこし補足させていただきますと、我々のやっている CG Kid's の方で岩木先生がよく言ってみえるんですけど、陶磁器と似たところがあると。デジタルコンテンツについて、ものづくりだと。というところでもまあ、脈々と続く陶磁器で続いてきたものづくりの文化、というものは継承していくもの、それこそデジタルコンテンツを作るにも一旦、型を作って、模型を作ってそれをデジタル化していくとかいうこともやっていて、原型師に習いに行く、そんなようなこともあったりしてつながりがないわけではない、というところもあつたりしますので、そういったところで瀬戸の陶磁器で培ってきた文化・技術というものが、今後もこういったところにもどんどん使われ、それがベース

になることもあると思うので、そういったところで少しずつでも取り上げていけばなあとは思っておりますので。

(後藤副委員長)

はい。

(安田委員長)

ありがとうございました。その他ご意見はありますか？

(事務局・経営戦略部長)

定年退職する私が残る部下達にあまり負担をかけてはいけないんですけど、ICT 戦略推進プラン・官民データ活用計画は、今の構成でいくとこれは行政計画なんですね。行政が何をやるかということが、今この中に、実現しようとしてこの骨子が含まれているということです。ただ、今まで皆さんのお話を聞いていると、市民目線でこのプランをどうやって表すかというのが大事なんだろうね、ということがよくわかりました。要は行政計画としての表し方のものと、まあ二つに分けるのがいいのかわかりませんが、あの、市民の方が朝起きました、こうするとこういいですよ、というような生活ライフスタイルに合わせた書きっぷり、で、これが一つの計画なんですよ、と。という表し方もあるのかな、という風に思いますので。それ2種類作れと言っているようなものですからちょっとあれなんですけども、またこの辺みなさんのお知恵をお貸しいただいて、今この行政計画バージョンのものを、先ほどからご意見あるように、瀬戸市独自のものとしてどう表していくかということ、また皆様方からお聞かせいただき、最終的な計画になればいいのかな。ですから骨子としては一旦置かせていただきますけども、それをベースとしてどういう風に表していくか、ということをご希望していきたいと。それで先ほどの説明の中で第7章を毎年毎年見直していくということでいいと思います。これは我々としては、予算が必要なものは確保できるように、といいいますかやれるように中期(3ヶ年)計画を作る細部の中に入れていきたいと思っておりますので、その中でどう優先順位をつけるかというのが逆に、また皆様方のお知恵をいただきたいと。そうしないと、各課からはいろんなものが出てきます、さきほど網羅的と言われましたがいろんなものが出てきますので、それをどう、やっぱりこれは先にやるべきだよねというのを先に示してあげれば、それに沿ったまた要求が出てく

と思いますので、そういうことで我々の予算的な確保もあるという風に思っていただけだと思います。

あとプロセスの中で、いま最終的に計画を作るとパブリックコメントをするんですけど、正直申し上げてたくさん来ません。ですのでこれを作って行く中で、いませっかく ICT とかやっていますので、例えばネットで、市民の方の、このテーマに関して意見どうですか？できれば瀬戸市民の方に聞きたいんですけども、そういうやり方もプロセスの中にあっているのかなと。そうすると、先ほど市民目線の方で書くような記述が、もう少し現実味を帯びていいものになるんじゃないかなと。先ほど皆様方の意見交換を聞いて、ちょっと私としてそう思いましたので、私がこう言ってしまった以上、彼らはやらなきゃいけない、立つ鳥跡を濁しちゃうんですけども、ということでとりあえず私の感想でした。以上です。

(安田委員長)

ありがとうございました。すっかりしっかりまとめていただいたので、私が出る幕がなくなりました。まさにパブリックコメントに関してはどこの自治体さんも同じですけど、市民の皆様から意見をもらいやすくするための工夫をぜひお考えいただくようお願いします。また、わかりやすい表現をぜひ、今日の委員の皆様方の共通のご意見だったのではないかなと思いますので、よろしくご配慮をお願いしたいと思います。私達の今日の第 1 回目のミッションとして骨子案に対して、みなさんよろしかったでしょうか？

(各委員同意)

(安田委員長)

ありがとうございます。では骨子案はこの形で進めていただいて、中身については先ほどお話がありましたように、今後、優先順位をつけるというのが我々のミッションの一つになってくると思いますので、今後とも引き続きよろしくをお願いしたいと思います。それではここで議事進行を事務局にお返しします。

(事務局・情報政策課長)

はい、どうもありがとうございました。本日皆様からいただいたご意見を踏まえて、まずは骨子をこれで確定させていただくと、いうこ

とにしたいと思います。次回につきましてはさきほどちょっとスケジュールの中で触れましたが、瀬戸市が今後 ICT を活用して目指す姿や、そのために必要となる取り組みについて、皆様から改めてもう少し細かいところまでご意見を頂けたらと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。一応 5 月下旬を予定しておりますので、よろしくお願い致します。日程はまた改めて決めましてご通知させていただきますのでよろしくお願い致します。

では以上を持ちまして、第 1 回瀬戸市 ICT 戦略推進プラン検討委員会を閉会とさせていただきます。

(閉会)